

Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

本校は、学術の進展に即応した教育の質の向上、地域社会及び地域の産業の発展に貢献することを主な目的として、関連する研究活動を行うとともに、他研究機関との連携や共同研究なども推進する。目的の実質化を図るため、特に以下の事項を掲げる。

○研究の教育への還元に関する具体的方策として、練習船「弓削丸」を活用した研究及び地域に根差した研究の還元、研究と教育の一体化

○地域の産業界からの技術相談、共同研究に対応するための研究の在り方や領域として、地域共同研究推進センターによる他機関との連携などの研究活動、研究テーマ・実績などの広報活動

選択的評価事項 A 研究活動の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学術の進展に即応した教育の質の向上を図るため、博士の学位取得の奨励（社会人博士課程の活用など）及び学位を有している者の新規採用により、学位取得教員の増加を図っている。校費による研究費は、学科ごとに配分され、専攻科担当教員へは別途追加配分されている（資料 A-1-①-1）。また、研究費の特別支援として、校長裁量経費の一部をポイント制によって傾斜配分している（資料 A-1-①-2）。それぞれの教員の研究成果は、卒業研究・特別研究等に多く取り入れられており（資料（再掲）：卒業研究，特別研究一覧表）、各学科において研究と教育の一体化が図れるように研究・支援体制が整備され機能している。また、内地研究及び在外研究へ教員を派遣し、派遣教員の校務・授業等については常勤教員及び非常勤講師で支援する体制をとっている（資料 A-1-①-3）。全教員の研究テーマや発表論文の状況については、教育研究者総覧の刊行及びウェブサイトへの掲載により広く社会に公表している（資料 A-1-①-4）。

海外の大学等との連携や共同研究推進のため、国際交流推進室を設置して（資料 A-1-①-5）、タイ王国ナコンパノム大学等と国際交流協定を結び、互いの学校に訪問するなどを通して共同プロジェクトの実施や学術・文化交流を行っている（資料 A-1-①-6）。

練習船「弓削丸」を活用した研究に関しては、本校教員の申請により、練習船運航委員会の議を経て、年間利用計画を立案して利用できるように研究・支援体制を整備している（資料 A-1-①-7, 8）。卒業研究等での利用などで教育への還元を行い、他の研究機関との共同研究（資料 A-1-①-9）に有効に利用することによって海洋及び船舶に関する研究の拠点として、練習船「弓削丸」を活用する研究・支援体制が機能している。

I C Tの活用による地域活性化の実現を目的として、平成 23 年に本校、上島町、四国情報通信懇談会、I C T関連企業などが参画して上島町情報化推進協議会を設立しており、地域の活性化や安心につながるようなネットワークインフラの利活用の方法について、上島町住民を対象とした実験・検証を行っている（資料 A-1-①-10）。

地域社会及び地域の産業の発展に貢献する研究の推進と本校における研究の活性化を図るため、地域共同研究推進センターを設置しており、民間等外部の機関との連携を深め、地域産業の発展・育成に関する技術分野について、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に寄与することを目的に活動している（資料 A-1-①-11）。同センターには、センター長、副センター長、センター研究員を配置しており（資料 A-1-①-12）、センター運営委員会により円滑な運営が図れる体制を整備している。

地域共同研究推進センター主催による外部資金獲得に関する説明会の実施（資料 A-1-①-13）のほか、センター紹介の冊子を作成・配布し（資料 A-1-①-11）、毎年商船祭と連携して研究成果のパネル展示を行い（資料 A-1-①-14）、その概要をまとめた冊子や年間活動記録を配布するなど広報活動に努めている。また、四国地区 5 高専の研究者情報検索システム（四国地区 5 高専研究者データベース）が構築され、常時公開されているなど多面的に機能している。

平成19年3月に、本校の技術と人材を活用し、愛媛県と広島県の沿岸と島嶼地域「しまなみ海道」エリアの産業界との連携を密にし、地場産業の技術の振興と地域社会の発展に寄与することを目的として、「弓削商船高等専門学校技術振興会（しまなみテクノパートナーズ）」を設立している（資料A-1-①-15）。技術振興会では、地域共同研究推進センターと共同で、「今治・しまなみ海道「ものづくり」技術・経営情報交換会」（資料A-1-①-16）や、前述の「商船祭パネル展示」（資料A-1-①-14）、「交流工場見学会ツアー」（資料A-1-①-17）などを行い、企業と教員の研究活動を繋げるための支援も行っている。

平成22年に、四国地区の産業の振興に寄与する産学官連携活動を組織的系統的に展開することを目的として、四国地区高専地域イノベーションセンターを設立し（資料A-1-①-18）、各高専のセンター長で構成される運営委員会を設置して、連携を図っている（資料A-1-①-19）。四国地区高専教員シーズ集を作成し、教職員が取り組んでいる研究課題や成果を広く紹介する（資料A-1-①-20）他、四国地区シーズ発表会を各校が担当して開催している。

事務的なサポートの体制として、校内外との技術支援の窓口企画広報室を設置しており、地域共同研究推進センター・技術振興会・教員研究などの活動支援の他、同支援の校内外への広報活動も行っている（資料A-1-①-21）。

技術面での支援として技術支援センターを設置している。技術支援センターでは、技術支援センター長に教育職（教授）を指名し、各学科長が副センター長として技術支援センター運営にあたるなど、各学科とセンターの連携強化を図っている（資料A-1-①-22）。

（分析結果とその根拠理由）

学術の進展に即応した教育の質の向上のため、博士の学位取得の奨励・支援、内地研究員及び在外研究員の派遣、校長裁量経費による研究費の特別支援、ナコンパノム大学等との国際交流など、学校全体として体制整備し、機能している。練習船「弓削丸」を活用した研究に関しては、本校教員の申請により利用できるように研究・支援体制を整備しており、卒業研究等での教育への還元や他の研究機関との共同研究の実施等によって、海洋及び船舶に関する研究の拠点として研究・支援体制が機能している。また、事務的な支援は、企画広報室を中心に適切に実施されている。技術支援センターでは、技術支援センター長を中心に各学科とセンターの連携強化を図り、支援体制が整備され機能している。地域社会及び地域の産業の発展に貢献する研究の推進のため、地域共同研究推進センター、技術振興会設立及び四国地区高専地域イノベーションセンターが設置され、本校の教員と地域及び産業界との連携を図ることができる研究体制、支援体制が整備され機能している。また、全教員の研究テーマや発表論文の状況については、教育研究者総覧の刊行及びウェブサイトへの掲載により広く社会に公表している。

以上のことから、本校の研究の目的に照らして、研究活動の実施や支援のための体制が整備され、機能している。

資料A-1-①-1

平成24年度 学内予算配分方針

非公開情報のための削除

(出典:総務課)

資料A-1-①-2

平成24年度 教育研究費追加配分申告書

非公開情報のための削除

(出典:総務課)

内地研究員・在外研究員一覧表

	内地研究員		在外研究員	
	氏名	期間	氏名	期間
平成10年度	(G)日下 佳春 (広島大学)	H10.5.1～H11.2.26		
平成11年度	(S)高岡 俊輔 (神戸商船大学)	H11.5.6～H12.2.29	(M)瀬濤 喜信 (アイルランド)	H11.6.1～H12.3.30
平成12年度				
平成13年度	(M)山田 貴志 (岡山県立大学)	H13.5.1～H14.2.28		
	(I)矢野 和昭 (山口大学)	H13.5.1～H14.2.28		
	(G)鈴木 利幸 (筑波大学)	H13.5.1～H14.2.28		
平成14年度	(S)秋葉 貞洋 (広島大学)	H14.5.1～H15.2.28	(M)藤本 隆士 (アイルランド)	H14.5.1～H15.2.28
平成15年度	(S)二村 彰 (愛媛大学)	H15.5.1～H16.2.28	(M)中山 恭秀 (デンマーク)	H15.5.1～H16.2.29
平成16年度	(M)益崎 真治 (福山大学)	H16.5.1～H17.2.28		
平成17年度			(S)湯田 紀男 (韓国)	H18.3.20～H19.1.13
平成18年度	(S)野々山 和宏 (東北大学)	H18.5.1～H19.2.28		
平成19年度	(G)岩本 豊 (静岡大学)	H19.5.1～H20.2.29	(M)加藤 茂 (オーストラリア)	H20.3.30～H21.3.1
平成20年度			(S)柳沢 修実 (フランス)	H21.3.20～H22.3.10
平成21年度	(I)藤井 温子 (福山大学)	H21.5.1～H22.2.26	(I)伊藤 芳浩 (ドイツ)	H22.3.27～H23.2.26
平成22年度			(M)ダリアンハット (米国)	H23.3.21～H23.3.15
平成23年度	(S)山崎 慎也 (神戸大学)	H23.5.1～H24.2.29		
平成24年度	(S)中村 真澄 (神戸大学)	H24.5.1～H25.2.28	(G)望月 肇 (米国)	H24.4.6～H25.3.11

(出典：企画広報室)

研究者要覧

研究者要覧の表示

氏名	氏名(カタカナ)	所属	職名	CONTROL
木村 隆一	キムラ リュウイチ		学長	閲覧
友田 進	トモダ ススム	商船学科	教授	閲覧
中 哲夫	ナカ テツオ	商船学科	教授	閲覧
多田 光男	タダ ミツオ	商船学科	教授	閲覧
児玉 敬一	コダマ ケイチ	商船学科	教授	閲覧
高岡 俊輔	タカオカ シュンスケ	商船学科	教授	閲覧
湯田 紀男	ユダ ノリオ	商船学科	教授	閲覧
村上 知弘	ムラカミ トモヒロ	商船学科	教授	閲覧
柳沢 修実	ヤナギサワ オサミ	商船学科	講師	閲覧
二村 彰	フタムラ アキラ	商船学科	准教授	閲覧
秋葉 貞洋	アキバ サダヒロ	商船学科	准教授	閲覧
野々山 和宏	ノノヤマ カズヒロ	商船学科	准教授	閲覧
勘久保 広一	カンクボ コウイチ	電子機械工学科	教授	閲覧
鶴 秀金	ツル ヒデト	電子機械工学科	教授	閲覧
藤本 隆士	フジモト タカシ	電子機械工学科	教授	閲覧
益崎 真治	マスザキ シンジ	電子機械工学科	教授	閲覧
中山 恭秀	ナカヤマ ヤスヒデ	電子機械工学科	准教授	閲覧
Garbat DAVAA	ダワァ ガンバット	電子機械工学科	教授	閲覧
塚本 秀史	ツカモト ヒデシ	情報工学科	教授	閲覧
高目 幸一	タカメ コウイチ	情報工学科	教授	閲覧

(1) 23 >

情報工学科

教授 博士(工学)

タブサ トモノリ

田房 友典

TABUSA Tomonori

TEL 0897-77-4656

電子メール tabusa @ info.yuce.ac.jp

URL http://www.yuce.ac.jp/home/~tabusa/

学歴・職歴

学歴 九州工業大学大学院大学院 工学研究科 設計生産工学 修了(2003)
九州工業 工学部 電気工学・情報コース 卒業(1996)

職歴 平成10年(1998)中電工業株式会社入社
平成11年(1999)弓削商船高等専門学校情報工学科助手
平成16年(2004)弓削商船高等専門学校情報工学科講師
平成17年(2005)弓削商船高等専門学校情報工学科准教授

講義

担当授業科目 本科:情報処理2
データベース
画像処理
情報工学実験③
専攻科:画像応用システム
コンピュータネットワーク
マルチメディア特論
情報処理特論
生産システム工学演習

教育上の実績

第1回ケータイ甲子園コミュニケーション部門グランプリ受賞(2011)
日本高専学会「奨励賞」受賞チーム名「愛恋」(2011)
第20回国民文化祭福岡甲子園優秀賞(2005)
IEEE広島支部学生シンポジウム最優秀プレゼンテーション賞(2004)

研究分野

所属学会 画像電子学会
電子情報通信学会
計測自動制御学会

受賞学術賞 計測自動制御学会九州支部奨励賞(2001)
源内賞(エシケル尾崎財団主催)源内奨励賞(2006.3.25)

研究分野 計測工学(キーワード:3次元画像計測, パターン認識, Webアプリク...

(出典：本校ウェブサイト)

○弓削商船高等専門学校国際交流推進室規則

制 定 平成22年6月21日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、留学生交流及び国際教育研究交流の推進を図るため、弓削商船高等専門学校国際交流推進室（以下「推進室」という。）を置く。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 外国人留学生の受入れに関する事項
- (2) 学生の留学及び海外研修に関する事項
- (3) 外国及び国内の大学等との協定に関する事項
- (4) 外国及び国内の大学等との教職員の交流に関する事項
- (5) その他本校の国際交流の推進に関する事項

(組織)

第3条 推進室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 国際交流推進室長
- (2) 国際交流推進室副室長
- (3) 留学関係担当 若干名
- (4) 国際学術交流関係担当 若干名
- (5) 各課長及び企画広報室長

2 前項第1号から第4号の室員は、教員の中から校長が指名する。

3 前項第1号から第4号の室員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長及び副室長)

第4条 推進室に室長及び副室長を置く。

2 室長は、推進室に関する業務を総括する。

3 副室長は、室長の業務を補佐する。

4 室長に事故があるときは、副室長がその職務を代行する。

(庶務)

第5条 推進室に関する庶務は、企画広報室及び学生課において処理する。

(出典：弓削商船高等専門学校規則集2-39 抜粋)

トピックス：タイ王国「ナコンパノム大学」を訪問し国際交流

投稿者：webmaster 投稿日時：2013-1-18 10:37:35 (464 ヒット)

弓削商船高専では、本校と国際交流協定を締結しているタイ王国のナコンパノム大学に教員2名、技術職員1名、学生7名(計10名)が、12月18日～12月27日の10日間訪問し、「メコン川の水深・水温自動計測ロボット」の共同プロジェクトの実施と学術・文化交流を行った。

滞在中は、共同開発中の「無人ロボットによるメコン川での水深、温度マップの計測実験」、「高専紹介」、「タイ・日本料理の調理実習」、「パイロット養成学科の見学」などを通し、現地の学生との交流を深めた。

参加した学生からは、「タイ国に多くの友人ができた」、「異文化に触れ、外から日本を見ることができた」、「語学力の必要性を感じた」、「海外に行くことへの抵抗感が無くなった」、「海外留学してみたい」等の声が聞かれ、非常に貴重な体験をする機会となった。



(出典：本校ウェブサイト)

○弓削商船高等専門学校練習船運航委員会規則

制 定 昭和45年11月1日

最終改正 平成23年12月22日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校内部組織規則第16条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校練習船運航委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 練習船の年間運航計画に関する事
- (2) 練習船の臨時運航計画に関する事
- (3) 練習船の維持保全に関する事
- (4) 練習船の予算に関する事
- (5) その他、練習船の運航に関する事
- (6) 技術支援センターの業務支援に関する事

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務主事
- (2) 各学科長及び総合教育科長
- (3) 弓削丸船長及び機関長
- (4) 地域共同研究推進センター長
- (5) 技術支援センター長
- (6) 各課長及び企画広報室長

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1号及び第2号の委員のうち、校長が指名する商船学科所属の者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、練習船弓削丸班において処理する。

(雑則)

第7条 この規則の定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、校長が定める。

(出典：弓削商船高等専門学校規則集2-9抜粋)

平成25年度 弓削丸運航予定表

月	平成25年度 弓削丸運航予定表																															現在		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31			
4月						入学式		新入生オリエンテーション	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	準備期間	
5月																																		
6月																																		
7月																																		
8月																																		
9月																																		
10月																																		
11月																																		
12月																																		
1月																																		
2月																																		
3月																																		

備考：— 囲みは定期試験 — 〇 囲みは選考試験及び再試験
 ■：運航日 ■：整備日 ■：学校行事 ■：月曜日授業(運航日を除く) ■：振替休日(学生)・創立記念日
 ■：延期

(出典：練習船弓削丸班)

別紙第1号様式（第3条関係）

共同研究申請書

平成24年11月8日

弓削商船高等専門学校長 殿

(申請者)

住 所 広島県尾道市因島重井町

580-0100

名 称 有限会社 柏原工業

代表者名 柏原 信彦



下記のとおり、共同研究の申請をいたします。

記

研究題目	練習船弓削丸機関室の3D映像化による管理システムの構築及び教育への活用の研究			
研究の概要	練習船弓削丸機関室をレーザースキャンによる3D映像化することによって、部品管理や学生への教育への応用について方向性等の研究を進める。			
研究の特色・意義	レーザースキャンによる3D映像化の技術は高度化しており、最新の設備を使用して、弓削丸機関室をどの角度からも見ることができる3D画像を作成し、部品管理の効率化や学生へのシミュレーション教育等への活用など、今後の展開による意義が期待できる。			
研究期間	平成24年12月1日から平成25年3月31日まで			
研究実施場所	弓削商船高等専門学校	練習船弓削丸		
	民間機関等			
共同研究者	有限会社 柏原工業		代表取締役 柏原 信彦	
			現場責任者 柏原 圭佑	
希望研究担当者	学 科	職 位	氏 名	
	練習船弓削丸	機関長	松永 直也	
研究に要する経費の負担額 (消費税額を含む)	直接経費	0円		
	研究料	0円		
	合 計	0円		
研究に要する提供設備等	練習船弓削丸（弓削商船高等専門学校）			
そ の 他				
事務連絡先	民間機関等名	担当課・係名	担当者氏名	電話番号・E-mail
	有限会社 柏原工業		柏原 圭佑	0845-24-02509 sumire@k-kashihara.co.jp

*弓削商船の共同研究者は、本共同研究における研究テーマと現在の専門との関係、分担する役割の意義、また、本研究によって得られると想定する研究成果について、別紙様式に詳細に記入し、添付すること。



(出典：企画広報室)

○上島町情報化推進協議会設置要綱

平成23年12月28日
告示第13号

(設置)

第1条 上島町の地域課題の解決のための情報化推進に関する構想策定、調査研究、開発、整備その他の必要な活動を行うため、上島町情報化推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(組織)

第2条 協議会は、情報通信技術及び地域課題の解決に関し専門的な知識及び見識を要する委員をもって組織する。

(委員の任期)

第3条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(役員)

第4条 協議会に会長を置く。

2 会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、協議会を統括し、会議の議長となる。

4 協議会の運営を確保するため、協議会に副会長を置くことができる。

5 協議を効果的に行うため、協議会にアドバイザーを置くことができる。

6 副会長及びアドバイザーは、会長が選任し、その任期は、会長が別に定めるものとする。

7 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会は、[第1条](#)に定める目的を遂行するために必要な会議を開催する。

2 協議会の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

3 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

4 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者をオブザーバーとして会議に出席させ、その説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第6条 協議会の事務局は、上島町総務部広報情報課に置く。

(要綱の変更)

第7条 [この要綱](#)は、協議会において委員全員の同意を得た上で、町長が変更することができる。

(解散)

第8条 協議会は、協議会において委員全員の同意を得た上で、町長が解散することができる。

(秘密の保持)

第9条 協議会の委員その他の協議会の関係者は、協議会の活動に関わって知り得た秘密を漏らしてはならない。

(その他)

第10条 [この要綱](#)に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

(施行期日)

1 [この要綱](#)は、平成24年1月1日から施行する。

(委員の任期の特例)

2 [この要綱](#)の施行の日後最初に開催される協議会の委員の任期は、[第3条第1項](#)の規定にかかわらず、平成25年3月31日までとする。

(会議の招集の特例)

3 [この要綱](#)の施行の日後最初に行われる協議会の会議は、[第5条第2項](#)の規定にかかわらず、町長が招集するものとする。

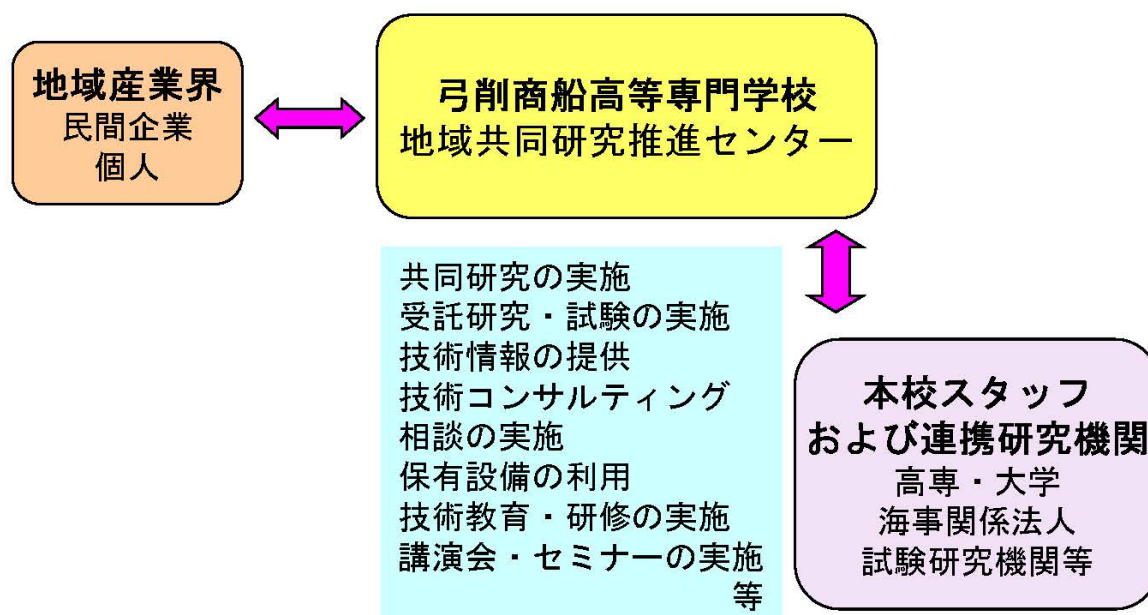
(出典：上島町情報化推進協議会)

推進センターってどんなところ？

地域共同研究推進センター

本推進センターは、民間等外部の機関との連携を深め、地域産業の発展・育成に関わる技術分野について、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に寄与することを目的に平成14年10月に設立しました。

推進センターの活動内容



相談窓口

ご相談、お問い合わせは、下記へご連絡ください
 弓削商船高等専門学校：企画広報室企画係
 TEL.0897(77)4613/FAX.0897(77)4691
 kikaku@office.yuge.ac.jp

(出典：企画広報室)

○弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成23年12月22日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第4条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター（以下「センター」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(目的)

第2条 センターは、民間等外部の機関との連携を深め、地域産業の発展・育成に関わる技術分野について、技術相談、技術指導、共同研究等の要請に応え、かつ、リフレッシュ教育の積極的推進を図り、併せて、本校における研究水準の向上に寄与することを目的とする。

(業務)

第3条 センターは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本校と地域産業との交流に関すること。
- (2) 共同研究、研究協力等の推進に関すること。
- (3) 技術相談に関すること。
- (4) 技術に関する講演会、講習会、研修会等の開催及び情報誌の発行に関すること。
- (5) 企業社員の研修等育成支援事業に関すること。
- (6) 本校の教育研究の振興に関すること。
- (7) その他、センターの目的達成に必要な事業に関すること。

(組織)

第4条 センターに次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長 1名
- (3) センター研究員 若干名

2 センター長は、本校の教授又は准教授の中から校長が任命する。

3 副センター長は、本校の教授又は准教授の中からセンター長の推薦により、校長が任命する。

4 研究員は、本校教員の中からセンター長の推薦により、校長が任命する。

5 センター職員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、センター長及び副センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター長及び副センター長の職務)

第5条 センター長は、センターの管理運営に関し総括する。

2 副センター長は、センター長を補佐する。

(センター運営委員会)

第6条 センターの円滑な運営を図るため、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進

(出典：弓削商船高等専門学校規則集2-16 抜粋)

資料A-1-①-13

平成25年4月5日

教員各位

地域共同研究推進センター長

木村 隆則

A-STEP 公募説明会の開催について（お知らせ）

下記の日程でA-STEP 公募説明会の開催しますので、お知らせします。外部資金獲得を推進しておりますので、多数御出席ください。

記

日 時： 4月16日（火） 16：20～

場 所： 第一会議室

《次 第》

1. 校長挨拶
2. 内容説明 四国地区産学官連携コーディネータ 関 丈夫

※ 参加できない場合でも、希望の方には資料を配布しますので企画係までご連絡ください。

（出典：企画広報室）

商船祭

第8回パネルフォーラム

教員、専攻科生、技術振興会会員が研究・開発シーズ発掘のための
パネル展示を開催いたします。

当日は商船祭の開催期間中ですので、お気軽にご参加ください。

会 期 11月3日(土)～4日(日)
10:00～15:00

会 場 弓削商船高専第1、第2会議室

【11月3日(土)】

★成果発表会 13:00～14:00

13:00～13:30 高岡 俊輔

13:30～14:00 DAVAA GANBAT

★ポスターイントロダクション 14:00～ 3分/1件



【11月4日(日)】

★コアタイム 13:00～14:00 (詳細な説明をさせていただきます)

両日とも企業によるパネル展示をしております。

主催 弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター

弓削商船高等専門学校技術振興会

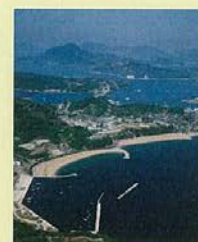
共催 弓削商船高等専門学校専攻科

お問い合わせ/弓削商船高等専門学校 企画広報室企画係

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000

TEL: 0897-77-4613 FAX: 0897-77-4691

URL: <http://www.yuge.ac.jp>



(出典: 企画広報室)

弓削商船高等専門学校技術振興会会則

(名称)

第 1 条 本会は、弓削商船高等専門学校技術振興会（通称「しまなみテクノパートナーズ」という。以下「本会」という。）という。

(目的)

第 2 条 本会は、弓削商船高等専門学校（以下「弓削商船高専」という。）の教育研究に協力するとともに、弓削商船高専及び会員相互の連携・交流を深め、愛媛県及び広島県を結ぶしまなみ海道を核とする地域における産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与することを目的とする。

(事務局)

第 3 条 本会に事務局を置く。

2 事務局に事務局長を置き、幹事のうち 1 名をもって充てる。

(事業)

第 4 条 本会は、第 2 条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 弓削商船高専の教育研究の充実に関すること。
- (2) 地域産業の発展に関すること。
- (3) その他本会の目的達成に必要なこと。

(組織及び会員)

第 5 条 本会は、本会の目的に賛同して入会した法人、団体及び個人を会員として組織する。

2 会員は、企業（団体）会員、個人会員及び特別会員とする。

(役員)

第 6 条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1 名
- (2) 副会長 2 名
- (3) 理事 若干名
- (4) 監査役 2 名
- (5) 幹事 若干名

(出典：企画広報室)

平成24年度弓削商船高等専門学校技術振興会
第2回今治・しまなみ海道「ものづくり」技術・経営情報交換会

日 時 平成24年11月9日(金) 講演会14:00~16:40
懇親会17:00~18:30

講演会場 弓削商船高等専門学校 アセンブリホール
愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000

講演題目 「海洋エネルギーの現状と展望
(海洋温度差発電と波力発電について)」

講演者 (独)佐賀大学海洋エネルギー研究センター センター長 門出 政則

企業講演 大洋電機(株)
「省エネ発電システム」
有限責任事業組合エーアイエス・ライブ・ジャパン
「AISを利用した船舶安全管理について」
愛媛銀行(株)
「最近の経済」

対 象 技術振興会会員及びしまなみ地域産業関係者

参加料 無 料

懇親会会場 インランド・シー・リゾート「フェスパ」 弓削商船高専から徒歩5分
愛媛県越智郡上島町弓削日比287
☎0897-77-2200

申込方法 申込書に必要事項を記入の上、11月2日(金)までに企画広報室企画係へ、
お申込みください。

☆申込み及び問い合わせ先

弓削商船高等専門学校企画広報室企画係
〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000
TEL:0897-77-4613
FAX:0897-77-4691
E-mail:kikaku@yuge.ac.jp

※お申込みの際いただきます個人情報は本件以外に使用することはありません。
また、実施中に係員によりスナップ写真を撮影しますが、撮影した写真は本校のホームページ等に掲載することがあります。何卒ご了承ください。



(出典：企画広報室)

しまなみテクノパートナーズ（弓削商船高等専門学校技術振興会）交流見学会

弓削商船高等専門学校技術振興会では会員相互の交流を図ることを目的として、交流見学会（バスツアー）を企画しましたので、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。参加希望の方は、参加申込書に参加者名、希望乗車場所等をご記入の上、9月21日（金）までにFAX等で弓削商船高等専門学校企画広報室企画係へお申し込みください。

記

日 程 平成24年10月4日（木）

8時20分 土生港バス停（ITMツリスト前） 集合（会員乗車）
 8時30分 土生港発
 9時30分 JR今治駅前（会員乗車）
 10時30分 井関松山製造所 着（松山市馬木町）

会社見学会

12時20分 井関松山製造所 発（バス内昼食：弁当）
 13時10分 愛媛県産業技術研究所（松山市久米窪田町）着

研究所見学会

15時00分 愛媛県産業技術研究所 発
 16時00分 JR今治駅前（会員下車）
 16時50分 土生港 着（会員下車）

見学会会場の概要

ISEKI 株式会社井関松山製造所

大正15年から80余年、農業とともに歴史を歩んできた農業機械専門メーカー。創業者井関邦三郎氏の「需要家に喜ばれる製品を」という言葉を胸に、数多くのすぐれた製品を世に送り出しています。「農業と農業機械」を経営の基軸とし、その開発、生産販売を通して商品の機能・性能・品質・コスト・サービス競争力を強化し、商品の差別化や優位性の確保による市場競争力の向上に努めている。農業機械、農業関連商品等のコア技術の創造活動と、その活動で得られた知的成果である発明や創作等を戦略的な知的財産活動によって権利化と活用を図り、新たな創造に繋げる知的財産を重視した事業活動に取り組んでいる。



愛媛県産業技術研究所 EVセンター

平成22年度、産業技術研究所内に「愛媛県EV開発センター」が設置される。電気自動車、電動漁船、電動バイクを始めとする電動化技術・電動化製品関連技術について、プラットフォームとしての役目を果たし、地域の産学官が集結して、電動化に関する技術開発等を行うことにより、EV関連産業の創出を図っている。



（出典：企画広報室）

四国地区高専地域イノベーションセンターに関する申し合わせ

平成22年 2月 5日
四国地区国立高等
専門学校校長会議

阿南工業高等専門学校、香川高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校及び高知工業高等専門学校は、四国地区高専地域イノベーションセンターの組織及び運営について、下記のとおり申し合わせる。

記

(目的)

第1 阿南工業高等専門学校、香川高等専門学校、新居浜工業高等専門学校、弓削商船高等専門学校及び高知工業高等専門学校（以下「四国地区高専」という。）は、四国地区高専の持つポテンシャルと地域の特性を生かし、地域の活性化と産業の振興に寄与する産学官連携活動を組織的系統的に展開するため、四国地区高専地域イノベーションセンター（以下「センター」という。）を設置する。

(運営)

第2 センターは、四国地区高専が共同で組織し運営する。

(部門及び業務)

第3 センターに次の各号に掲げる部門を置き、各業務を行う。

一 イノベーション創出部門

- ア 四国地区高専が連携して行う技術シーズとニーズのマッチングに関すること。
- イ その他、センターの目的を達成するために必要な技術相談、共同研究等の産学官連携活動に関すること。

二 知的財産部門

- ア 四国地区高専が連携して行う知的財産管理に関すること。
- イ 四国地区高専が連携して行う知的財産教育に関すること。
- ウ その他、センターの目的を達成するために必要な知的財産に関すること。

三 四国地区高専連携部門

- ア 前2号の部門の業務以外で、センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

(教職員)

第4 センターに、次の教職員を置く。

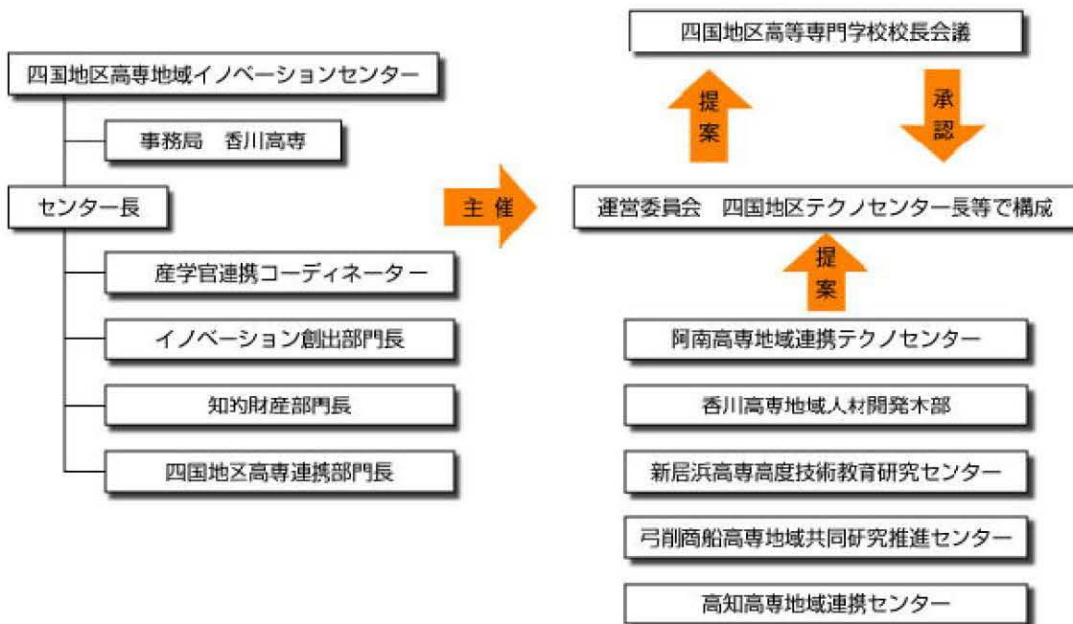
- 一 センター長
- 二 部門長 各1人
- 三 その他必要な教職員

(センター長)

第5 センター長は、センター業務を統括する。

(出典：四国地区高専地域イノベーションセンター)

四国地区高専地域イノベーションセンター | センター概要



(出典：四国地区高専地域イノベーションセンター)



(出典：四国地区高専地域イノベーションセンター)

第11条 企画広報室に次の係を置く。

企画係

情報・広報係

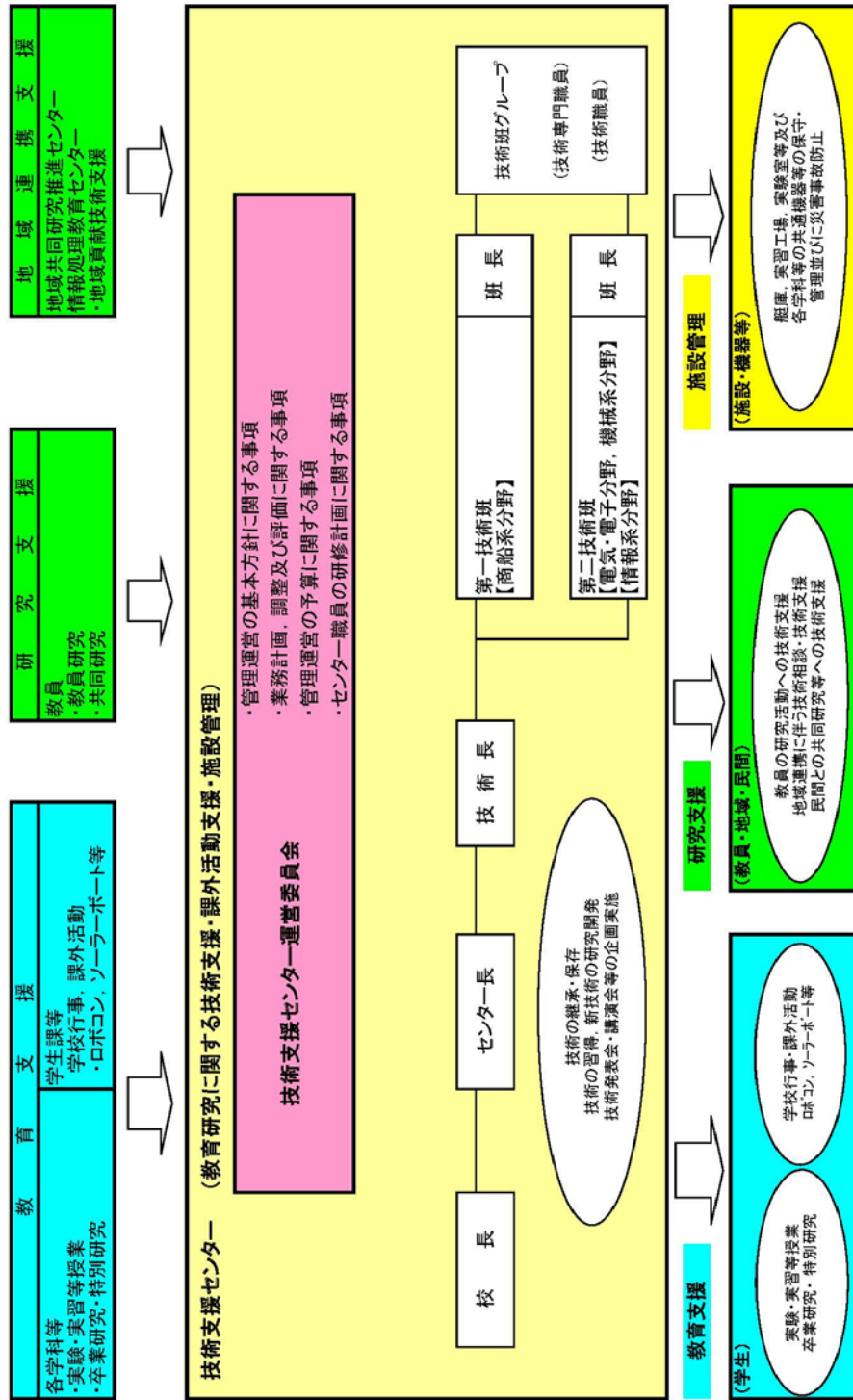
2 企画係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 学校の将来構想についての企画・立案の事務に関する事。
- (2) 組織の設置及び改廃に関する事。
- (3) 地域との連携並びに学術交流及び研究協力の推進に関する事。
- (4) 科学研究費補助金に関する事。
- (5) 共同研究及び受託研究に関する事。
- (6) 中期計画及び年度計画に関する事。
- (7) J A B E Eに関する事。
- (8) 自己点検・外部評価に関する事。
- (9) 国際交流に関する事。
- (10) 事務機構に関する事。
- (11) 事務の合理化、省力化及び減量化に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。
- (12) 公開講座に関する事。

(出典：弓削商船高等専門学校規則集3-1

弓削商船高等専門学校事務組織及び事務分掌規則抜粋)

弓削商船高等専門学校技術支援センター運営方法(イメージ図)



(出典：技術支援センター)

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

本校の研究の目的の一つである練習船「弓削丸」を利用した共同研究(資料A-1-②-1)などで得られた知見を基に、卒業研究・特別研究テーマへの取り込みや(資料A-1-②-2)、四国地区高専が連携した特別講義での活用(資料A-1-②-3)など教育への還元を行っている。

高専IT教育コンソーシアムでは、本校の豊富なプロコン指導により得られた知見が多く反映されており、具体的なコンテンツ作成に取り組むなどプロジェクトの中核的な役割を担った。また、情報処理、英語関連の資格試験対策やe-learningを活用した創造性授業を推進するため、本校独自のe-learningコンテンツの充実を図るなど、教育内容を学術発展に即応させる研究を行っている(資料A-1-②-4, 5)。

専攻科課程では教員の研究分野とリンクした研究テーマで特別研究が行われ、関連学会及び関係論文集に積極的に発表することを目標としており、研究論文発表の他、各種コンテスト等で様々な賞を受賞するなど研究の教育への還元を図っている(資料A-1-②-6~8)。

地域共同研究推進センターが中心になって、他大学や関連企業・研究所との定期的な研究の連携・交流は全体としてはまだ十分でないものの、地域社会及び地域の産業の発展に貢献するため、上島町と連携した事業や共同研究を行っており(資料A-1-②-9~11)、成果を挙げつつある。また、技術振興会の支援をきっかけに取得した特許取得の実績や(資料A-1-②-12)、四国地区高専シーズ発表会(資料A-1-②-13)等での研究発表を行い、研究のレベルアップを図り、成果の広報活動にも努めている(資料A-1-①-4, 資料A-1-①-20)。また、技術講習会等を計画し、地域の技術者のリフレッシュ教育や技術指導を実施している(資料A-1-②-14)。「しまなみテクノパートナーズ企業会員会社案内」を刊行し、企業の概要を紹介することによって今後の技術振興会の連携強化に努めている(資料A-1-②-15)。

外部資金の獲得増や特許の取得増については、より一層の改善に努める必要がある。(資料10-1-③-1)。

さらに、兵庫医科大学、鹿児島高専及び上島町と連携して、自然環境に恵まれた本校の特性を活かした「大気環境と呼吸器疾患」に関する研究に着手している(資料A-1-②-16)。

(分析結果とその根拠理由)

研究の目的に沿った活動として、練習船「弓削丸」を活用した共同研究や教育への還元が行われている。高専IT教育コンソーシアムの中で、本校は中核的な役割を担い、e-learningコンテンツの充実に取り組むなど、教育内容を学術発展に即応させる研究を行っている。研究論文及び学会発表については、様々な分野で研究発表が行われ、成果の広報活動に努めている。また、地域共同研究推進センターが中心になって、他大学や関連企業・研究所との定期的な研究の連携・交流を重ねつつ、地域社会及び地域の産業の発展に貢献するため、上島町と連携した事業や共同研究を行っており、成果を挙げている。また、技術振興会の支援をきっかけに取得した特許取得や四国地区高専シーズ発表会での研究発表にも努めている。

以上のことから、研究の目的に沿って、練習船「弓削丸」の活用、教員の研究活動及び地域社会・産業界との連携の実績が着実に得られてきている。

弓削丸を利用した共同研究

<p>研究題目 強風時機橋停泊のための CPP 翼角制御法の開発</p> <p>研究期間 平成 22 年 7 月 1 日(木) ～平成 23 年 3 月 31 日(木)</p> <p>研究代表者 弓削丸船長 豊田 利彦 弓削丸機関長 松永 直也 弓削丸一等航海士 永本 和寿</p> <p>共同研究者 広島工業大学工学部知能機械工学科 准教授 土井 正好</p>	<p>研究題目 出入港など船舶低速航行時の予測制御法による操舵性改善</p> <p>研究期間 平成 24 年 7 月 1 日(日) ～平成 25 年 3 月 31 日(日)</p> <p>研究代表者 弓削丸船長 永本 和寿 弓削丸機関長 松永 直也</p> <p>共同研究者 広島工業大学工学部知能機械工学科 准教授 土井 正好</p> <p>共同研究費 144 千円</p>
<p>研究題目 練習船による加水分解型防汚塗料の性能及び効果に関する調査研究</p> <p>研究期間 平成 22 年 8 月 25 日(水) ～平成 23 年 3 月 31 日(木)</p> <p>研究代表者 弓削丸一等航海士 永本 和寿</p> <p>共同研究者 海上技術安全研究所 生産システム系研究員 林原 仁志</p> <p>共同研究費 317 千円</p>	<p>研究題目 練習船による加水分解型防汚塗料の防汚効果に関する調査研究</p> <p>研究期間 平成 24 年 10 月 1 日(月) ～平成 25 年 3 月 31 日(日)</p> <p>研究代表者 弓削丸一等航海士 森 瑛太郎</p> <p>共同研究者 海上技術安全研究所 構造系 主任研究員 村上 睦尚</p>
<p>研究題目 練習船による低 VOC 塗料を用いた塗装工数削減実証に関する調査研究</p> <p>研究期間 平成 22 年 8 月 25 日(水) ～平成 23 年 3 月 31 日(木)</p> <p>研究代表者 弓削丸一等航海士 永本 和寿</p> <p>共同研究者 海上技術安全研究所 生産システム系 主任研究員 村上 睦尚</p>	<p>研究題目 練習船弓削丸に塗装した塗料の断熱・防音・空気質改善の効果に関する調査研究</p> <p>研究期間 平成 24 年 10 月 1 日(月) ～平成 24 年 12 月 20 日(木)</p> <p>研究代表者 弓削丸一等航海士 森 瑛太郎</p> <p>共同研究者 株式会社サニックス三原営業所 所長 坂口 公彦</p>
<p>研究題目 急潮予報システムの構築と生態影響評価への戦略的運用</p> <p>研究期間 平成 23 年 5 月 29 日(日) ～平成 24 年 2 月 28 日(火)</p> <p>研究代表者 商船学科 准教授 二村 彰</p> <p>共同研究者 愛媛大学沿岸環境科学研究センター 教授 磯辺 篤彦 他</p>	<p>研究題目 練習船弓削丸機関室の 3D 映像化による管理システムの構築及び教育への活用の研究</p> <p>研究期間 平成 24 年 12 月 1 日(土) ～平成 25 年 3 月 31 日(日)</p> <p>研究代表者 弓削丸機関長 松永 直也</p> <p>共同研究者 有限会社柏原工業 代表取締役 柏原 信彦</p>
<p>研究題目 練習船による加水分解型防汚塗料の防汚効果に関する調査研究</p> <p>研究期間 平成 23 年 11 月 1 日(火) ～平成 24 年 3 月 31 日(土)</p> <p>研究代表者 弓削丸船長 永本 和寿</p> <p>共同研究者 海上技術安全研究所 構造系 主任研究員 村上 睦尚</p>	<p>研究題目 練習船弓削丸に於ける、NMR パイププロテクター取り付けによる、青海水の配管防錆効果の研究</p> <p>研究期間 平成 25 年 1 月 21 日(月) ～平成 25 年 7 月 25 日(木)</p> <p>研究代表者 弓削丸機関長 松永 直也</p> <p>共同研究者 有限会社柏原工業 代表取締役 柏原 信彦</p>
<p>研究題目 練習船艇によるレーダー反射測定に関する調査研究</p> <p>研究期間 平成 24 年 6 月 1 日(金) ～平成 25 年 3 月 31 日(日)</p> <p>研究代表者 弓削丸一等航海士 森 瑛太郎</p> <p>共同研究者 海上技術安全研究所 構造系 主任研究員 村上 睦尚</p>	

(出典：企画広報室)

平成24年度 商船学科卒業研究発表会 講演プログラム

ページ	発表時間	発表テーマ	卒研学生	指導教員	進行	時計
	08:50-09:00	開会の言葉(商船学科長)				
1	09:00-09:15	二級海技試験(航海)の取り組みについて	黒田明弘、高垣毅、原田佳樹	二村	高岡	新田
2	09:15-09:30	燃料のエマルジョン化が燃焼、排気特性に与える影響	濱田繁宏、芝優樹	秋葉	高岡	新田
3	09:30-09:45	気相反応によるダイヤモンドの作成	川島大尚、村上一樹、村上夕季	友田	中	武田
4	09:45-10:00	海のカーナビゲーションの開発	佐々木淳	高岡	中	武田
	10:00-10:15	休憩				
5	10:15-10:30	帆船の研究 -V- (帆船の歴史と現代帆船への進化)	戸井侑貴、松田大斗	高岡	湯田	大元
6	10:30-10:45	英語力向上のためにTOEICテストを利用する方法の考察	福山大貴	児玉	湯田	大元
7	10:45-11:00	語学力向上のための学習方法の考察	水本進一、村田祐希	児玉	山崎	東口
8	11:00-11:15	水溶性ゲルを利用した防汚塗料の開発	村上弘樹、吉原洸喜	村上知	山崎	東口
	11:15-11:30	休憩				
9	11:30-11:45	緩衝材に適したナノコンポジットゲル(NCゲル)の作製	吉田康二	村上知	友田	山下
10	11:45-12:00	弓削商船高専・商船学科の5年間の進路状況の推移	大元昌憲、前川廣明	多田	友田	山下
11	12:00-12:15	「海運経済研究」にみる海運経済分野における学術研究の動向	村上横之助	野ノ山	児玉	川島
	12:15-13:30	昼食・休憩				
12	13:30-13:45	マグネシウム合金板の温間角筋深絞りにおける温度と速度の影響	菅原大貴、東口晋平	中	村上知	濱田
13	13:45-14:00	災害時における発電機の一考察	廣瀬裕也、藤崎聖也	湯田	村上知	濱田
14	14:00-14:15	商船学科PRグッズの開発 - ボンボン船製作 -	三木良祐、山下訓史、緒纒将吾	湯田	多田	佐々木
15	14:15-14:30	プロペラ後流中における一軸二枚舵に働く流体力	新田浩貴、二神泰太、渡辺敬太	湯田	多田	佐々木
	14:30-14:45	休憩				
16	14:45-15:00	マルチ・フェロイック・デバイスの開発	木本卓也、川上拓哉、馬越信	柳澤	向瀬	水本
17	15:00-15:15	練習船機関室のインタラクティブな模型教材の製作と応用	國本翔太、塩見春也	向瀬、山崎	野々山	水本
18	15:15-15:30	実写画像による機関室シミュレーションシステムの製作と応用	武田駿弥、市川颯	向瀬、山崎	秋葉	吉田
	15:30-15:45	総評(商船学科長)				

発表時間 15分
 内訳 発表 12分、質疑応答 3分
 打令 10分:1鈴、12分:2鈴、15分:3鈴

(出典：学生課)

四国地区高専との連携・交流事業に伴う「特別講義」実施要領


- 1 目的 四国地区高専間の連携・交流を推進するため、本校練習船を活用し、科学技術・共同生活及びエネルギーシステムについて特別講義を行い、広い視野を持った技術者の養成又、即戦力を備えた技術者の育成を目的とする。
- 2 期 日 平成24年8月21日（火）～8月24日（金）
- 3 日 程 別紙「日程表」のとおり
- 4 場 所 弓削商船高等専門学校 練習船「弓削丸」ほか
- 5 テーマ エネルギーシステムについて
- 6 単 位 1単位（30時間）
- 7 単位認定 単位認定は提出されたレポートで成績評価を行い、他の科目との単位互換等は各高専で行う。
- 8 対象学生 各学科（4年次又は5年次が望ましい。）
- 9 募集人員 各高専5名程度
- 10 講義名及び担当者
 - (1) 「バイオ技術を活用したエネルギーの現状と最新の技術動向」
(担当者：香川高専高松キャンパス 多川 正)
 - (2) 「LEDの利用による省エネルギー化」
(担当者：阿南高専 長谷川 童生)
 - (3) 「バイオマスエネルギーとその生成システム」
(担当者：高知高専 永橋 優純)
 - (4) 「電気エネルギー伝送技術の基礎から応用まで」
(担当者：新居浜高専 加藤 克巳)
 - (5) 「地熱発電（または海洋温度差発電）について」（仮題）
(担当者：香川高専詫間キャンパス 田嶋 眞一)
 - (6) 「操船と舵」
(担当者：弓削商船高専 永本 和寿)
 - (7) 「舶用機関システム」
(担当者：弓削商船高専 松永 直也)
- 11 集合場所及び集合時間 弓削商船高等専門学校 第一会議室
平成24年8月21日（火）14時30分

(出典：「特別講義」実施要領)

インターネット高専スクール <http://kosen-e.jp/>

e-Learning創造性教育コース

プロジェクト管理手法入門コース



これであなたもプロジェクトマネージャ

本入門コースでは、グループでの共同作業に必要なプロジェクト管理について学習します。問題解決におけるアイデア収集の方法、計画の立て方、モチベーションの維持、プロジェクトの評価など、プロジェクトを成功に導くためのコツを習得していきます。

弓削商船高専

お知らせ

- **プロジェクト管理手法入門コース** 概要
- **紙飛行機の製作コース** 概要 **NE**
- **つないで計ってみよう電気抵抗コース** 概要 **NE**
- **ハンダ付けからのものづくり教育コース** 概要 **NE**
- **電子デバイス応用入門コース** 概要 **NE**
- **集積回路(IC)設計入門コース** 概要 **NE**
- **インターネット遠隔制御技術入門コース** 概要 **NE**
- **LEGOを用いた自律型ロボット製作コース** 概要 **NE**
- **宇宙電波工学入門コース** 概要 **NE**
- **Webアプリケーション入門コース** 概要 **NE**
- **PC-UNIXサーバ構築入門コース** 概要 **NE**
- **プレゼンテーション入門コース** 概要

現代GPプロジェクト **現代GP** 文部科学省・現代的教育ニーズ取組支援プログラム
高専IT教育コンソーシアム 高専IT教育コンソーシアム加盟校の12高専による共同プロジェクト

(出典：<http://kosen-e.jp/index.html>)

弓削商船高専E-learningサイト2013

あなたはログインしていません。 [ログイン](#)

Home ▶ コース ▶ 2013年度 ▶ 情報工学科

ナビゲーション

- Home
- サイトニュース
- ▼ コース
 - ▼ 2013年度
 - ▼ 情報工学科
 - ▶ 情報工学実験
 - 2013プログラミング特論
 - プログラミング応用2013
 - アルゴリズム2013
 - 2012人工知能
 - 2012データベース
 - 2012プログラム基礎
 - 2013コンパイラ
 - 2012画像処理
 - ▶ 商船学科
 - ▶ 電子機械工学科
 - ▶ 生産システム工学専攻
 - ▶ 海上輸送システム専攻
 - ▶ その他

コースカテゴリ: 2013年度 / 情報工学科

サブカテゴリ: 情報工学実験

プログラミング特論 教師: 長尾 和彦	プログラムの規模がより大規模になるにつれ、プログラム開発プロジェクト管理が必要となる。本講義では、中規模程度のプログラム開発を通して、プロジェクト管理、スケジューリングの重要性を学習する。
プログラミング応用2013 教師: 長尾 和彦	
アルゴリズム2013	プログラミングは、計算機による問題解決の唯一の手段である。その技術取得は、プログラマの問題解決能力に直接かかわるためかなりの努力と経験を積み重ねなければならない。本講義は、プログラミング作業をできるだけ形式化した、構造化プログラミングの概念について解説し、問題解決法の習得を目標とする。また、有用なアルゴリズム、評価方法についても触れる。
人工知能 教師: 釜脇 さやか	
データベース 教師: 田房 友典	
プログラム基礎 教師: 田房 友典	
コンパイラ 教師: 長尾 和彦	コンパイラとは、人間の記述したプログラムを計算機で実行可能な形式に変換するためのプログラムである。コンパイラは、プログラム開発に必須のツールであったことから、アルゴリズムについて比較的研究がなされてきた分野である。本講義では、コンパイラの基本的な概念、原理および作成方法について解説する。

(出典：本校ウェブサイト)

資料A-1-②-6

専攻科学生による研究論文発表件数

年度	学術論文(研究紀要を含む)	学会発表件数	中四国高専研究交流会
平成25年	10	14	13
平成24年	8	26	11
平成23年	16	29	17
平成22年	22	42	12
平成21年	13	26	13
平成20年	19	20	28

(出典：専攻科特別研究概要集)

資料A-1-②-7

専攻科学生の各種受賞者一覧

- 平成24年度：金山 竜也
機械学会・中四国学生会 第43回学生員卒業研究発表講演会・「優秀発表賞」
- 平成24年：山本美奈子
ETロボコン2012中四国大会モデル部門・「奨励賞」
- 平成23年度：矢口竜也
機械学会・中四国学生会 第42回学生員卒業研究発表講演会・「優秀発表賞」
- 平成23年：金山 竜也
軽金属学会・希望の星賞
- 平成21年度：岡野翔太郎
機械学会・中四国学生会 第40回学生員卒業研究発表講演会・「優秀発表賞」
- 平成21年：大出明慶
軽金属学会・中四国支部・第1回軽金属学会中四国支部講演会・「優秀講演賞」
- 平成20年：片平 卓志
軽金属学会・希望の星賞
- 平成20年：石渡寛明
キャンパスベンチャグランプリ四国・「奨励賞」
- 平成19年：栗田充邦
全国高専プログラミングコンテスト2007・「文部科学大臣賞」
- 平成19年度：秦 昂平
機械学会・中四国学生会 第38回学生員卒業研究発表講演会・「優秀発表賞」
- 平成19年：渡邊文浩
電子情報通信学科 HCG 研究グループ・「ヒューマンコミュニケーション賞」
- 平成18年：森本猛
キャンパスベンチャグランプリ四国・「四国産業人クラブ賞」

(出典：学生課)

2012年度教育システム情報学会学生研究発表会で優秀賞を受賞

弓削商船高専

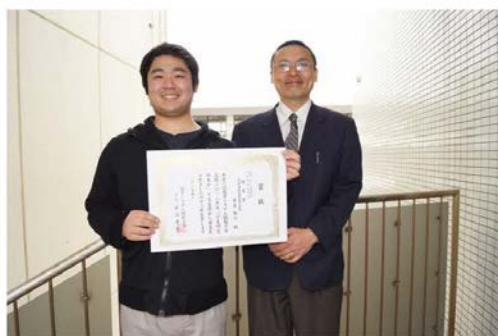
3月2日（土）に、広島県東広島市市民文化センターで開催された「2012年度 教育システム情報学会 学生研究発表会」で本校の専攻科生が優秀賞を受賞した。

教育システム情報学会は、教育分野におけるコンピュータ利用等に関する学術研究・調査および情報交換を行い、コンピュータの調査・研究を援助し普及することを目的とした学会で、年1回各地区で学生研究発表会を開催している。本発表会には、広島大学や近畿大学などから合計13名の学生が参加した。発表後、審査員による発表の審査が行われ、生産システム工学専攻1年生桑原裕也君が優秀賞（1位）に輝いた。

桑原君は「高専生が自分一人というなかで発表するのは不安だったが、受賞したことで自信がついた。」と受賞の喜びを語った。今年9月に開催される「2013年度教育システム情報学会全国大会」に中国支部代表として参加する予定である。

【優秀賞】

発表タイトル 「高齢化地域にふさわしい ICT の利活用に関する研究」



優秀賞を受賞した桑原君と指導教員の長尾先生

（出典：情報工学科）

平成24年度共同研究一覧

研究題目	契約日	研究期間	契約金額 (円)	平成24年 度 (円)	間接経費 (内数) (円)	契約相手先	研究担当者名
練習船によるレーダー反射測定に関する調査研究	H24.6.1	24.6.1 ~ 25.3.31	0	0	0	独立行政法人海上 技術安全研究所	練習船弓削丸 森 瑛太郎
出入港など船舶低速航行時の予測制御法による操舵性改善	H24.6.6	24.7.1 ~ 25.3.31	144,000	144,000	0	広島工業大学	練習船弓削丸 永本 和寿
大強度パルス発生装置を用いた高密度プラズマの挙動観測システムの構築	24.7.31	24.7.31 ~ 25.3.31	150,000	150,000	0	長岡技術科学大学	電子機械工学科 准教授 櫻根 健史
材料科学、生体計測工学、海岸工学を 結集したシーサバイバルプログラムの 開発	24.7.31	24.7.31 ~ 25.3.31	150,000	150,000	0	長岡技術科学大学	商船学科 教授 児玉 敬一 商船学科 准教授 野々山 和宏 商船学科 准教授 二村 彰
スマートフォンを用いたAIS情報代替送 信システムの開発	H24.8.1	24.8.1 ~ 25.3.31	0	0	0	エーアイエス・ライブ ジャパン	電子機械工学科 助教 長井 弘志
上島町エネルギー政策への取り組み 「浮体式潮流発電システムの実験及び 評価」	H24.9.12	24.10.1 ~ 25.3.31	0	0	0	上島町	電子機械工学科 教授 木村 隆則
練習船による加水分解型防汚塗料の 防汚効果に関する調査研究	H24.10.1	24.10.1 ~ 25.3.31	0	0	0	独立行政法人海上 技術安全研究所	練習船弓削丸 森 瑛太郎
練習船弓削丸に塗装した塗料の断熱・防 音・空気質改善の効果に関する調査研究	H24.10.1	24.10.1 ~ 24.12.20	0	0	0	株式会社サニックス三 原営業所	練習船弓削丸 森 瑛太郎
配管検査ロボットに関する研究開発	H24.11.22	24.12.1 ~ 25.3.31	550,000	550,000	50,000	(株)カンゾール	情報工学科 助教 前田 弘文
練習船弓削丸機関室の3D映像化による管 理システムの構築及び教育への活用の研 究	H24.11.27	24.12.1 ~ 25.3.31	0	0	0	(有)柏原工業	練習船弓削丸 松永 直也
練習船弓削丸に於ける、NMRハイブリッドク タ取り付けによる、音海水の配管防錆効果の研究	H24.11.27	25.1.21 ~ 25.7.25	0	0	0	(有)柏原工業	練習船弓削丸 松永 直也
11件			994,000	994,000	50,000		

(出典：企画広報室)

トピックス：ICT利活用瀬戸内海サミットin上島を開催

投稿者：webmaster 投稿日時：2012-12-3 16:37:23 (246 ヒット)

平成24年11月30日から2日間に渡り、上島町で「ICT利活用瀬戸内海サミットin上島」が開催されました。本サミットは、全国の自治体職員、総務省各通信局関係者、地元住民などが参加し、全国のICTに関する事例紹介や本校と上島町との連携などを紹介しています。

1日目は、上島町せとうち交流館に於いて講演や事例紹介が行なわれ、上島町情報推進協議会会長である情報工学科長尾教員より「タブレット型端末を用いたコミュニケーションツール「島タブ」」が講演されました。2日目は、本校アセンブリホールにおいて、「島タブ」の開発に携わった情報工学科学生と参加者として、体験操作が行なわれました。最後に、上島町からの受託研究により情報工学科田房教員が構築した「生名地区水位警報システム」の現地視察が行われサミットは閉幕しました。



(出典：本校ウェブサイト)

別紙第1号様式(第3条関係)

共同研究申請書

平成24年9月10日

弓削商船高等専門学校長 殿

(申請者)

住所 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 210 番地

名称 上島町

代表者名 町長 上村 俊之



下記のとおり、共同研究の申請をいたします。

記

研究題目	上島町エネルギー政策への取り組み 「浮式型潮流発電システムの実験及び評価」				
研究の概要	・浮式型潮流発電システムの構築及び実験用発電装置の製作 ・海上での装置発電実験を行い、データ収集及び評価を行う。				
研究の特色・意義	離島である上島町の特性を活かし、潮流エネルギーの活用に関連官連携により地域一体となって取り組み、スマートコミュニティーの実現と、災害時における電力確保に寄与することを目的とする。また、観光や地場産業の振興など地域社会・経済の活性化を目指す。				
研究期間	平成24年10月1日から平成25年3月31日まで				
研究実施場所	弓削商船高等専門学校		校内研究室		
	上島町		上島町近辺の海域 (漁協許可区域)		
共同研究者	所属・職名	氏名	現在の専門	役割分担	派遣の有・無
	企画政策課長 産業振興課長	村上 和彦 島本 計治	町民啓発、 地域ネットワークの活用	実験機材の提供交渉及び実験場所の使用交渉	無
希望研究担当者	学 科		職 位	氏 名	
	電子機械工学科		教授	木村 隆則	
研究に要する経費の負担額(消費税額を含む)	直接経費	0円			
	間接経費	0円			
	合計	0円			
研究に要する提供設備等	協力企業による本体となる鋼板船体、発電機等の提供				
その他	協力企業：(株)今井製作所, 大洋電機(株)				
事務連絡先	民間機関等名	担当課・係名	担当者氏名	電話番号・E-mail	
	上島町	総務部 企画政策課	村上 和彦	0897-77-2500 murakami-kazuhi o@town.kamijima. ehime.jp	

(出典：企画広報室)

資料A-1-②-12

特許出願状況

発明の名称	出願番号	審査請求日
ブロック配置支援システム及び配置支援システム用プログラム	特願2009-243911	2011/8/2
X線画像撮影装置、X線イメージインテンシファイヤ及び画像増強方法	特願2010-122802	2012/5/25

(出典：企画広報室)

資料A-1-②-13

四国地区高専シーズ発表会 発表者一覧

年度	発表者(氏名・所属)	発表題目	発表分野	開催校
平成24年度	榎田 温子 (情報工学科)	広島市内国道2号線における信号制御システムの開発事例	情報・制御	新居浜高専
	向瀬 紀一郎 (商船学科)	拡張現実感技術と模型教材による機関室シミュレーション	商船	弓削高専
	政家 利彦 (電子機械工学科)	金属結晶材料中における水素原子拡散過程に対する原子運動論的研究	電気・電子	弓削高専
平成23年度	峯脇 さやか (情報工学科)	対話型e-Learningシステムの開発	情報・制御	香川高専
	高岡 俊輔 (商船学科)	海のカーナビゲーションの開発	機械, 商船	弓削商船高専
	望月 肇 (総合教育科)	シャドーイング法の脳内言語処理メカニズムの解明と教室への応用—NIRSと簡易型LLシステムを用いて—	機械, 商船	弓削商船高専
平成22年度	長井 弘志 (電子機械工学科)	発話音声でオブジェクトとキャラクタが引き込み反応する身体的プレゼンテーションシステムの研究	電気・電子	阿南高専
	岡本 太志 (情報工学科)	海洋照明用点灯システムの研究	情報・制御, 商船	弓削商船高専
	永本 和寿 (商船学科)	練習船を利用した英語教育「英語による乗船実習」	情報・制御, 商船	弓削商船高専
平成21年度	高岡俊輔	e-操船支援システムの開発		サンメッセ香川

(出典：企画広報室)

「技術講習会—有限要素法応用セミナー」講習内容

(平成24年11月12日, 19日, 26日)

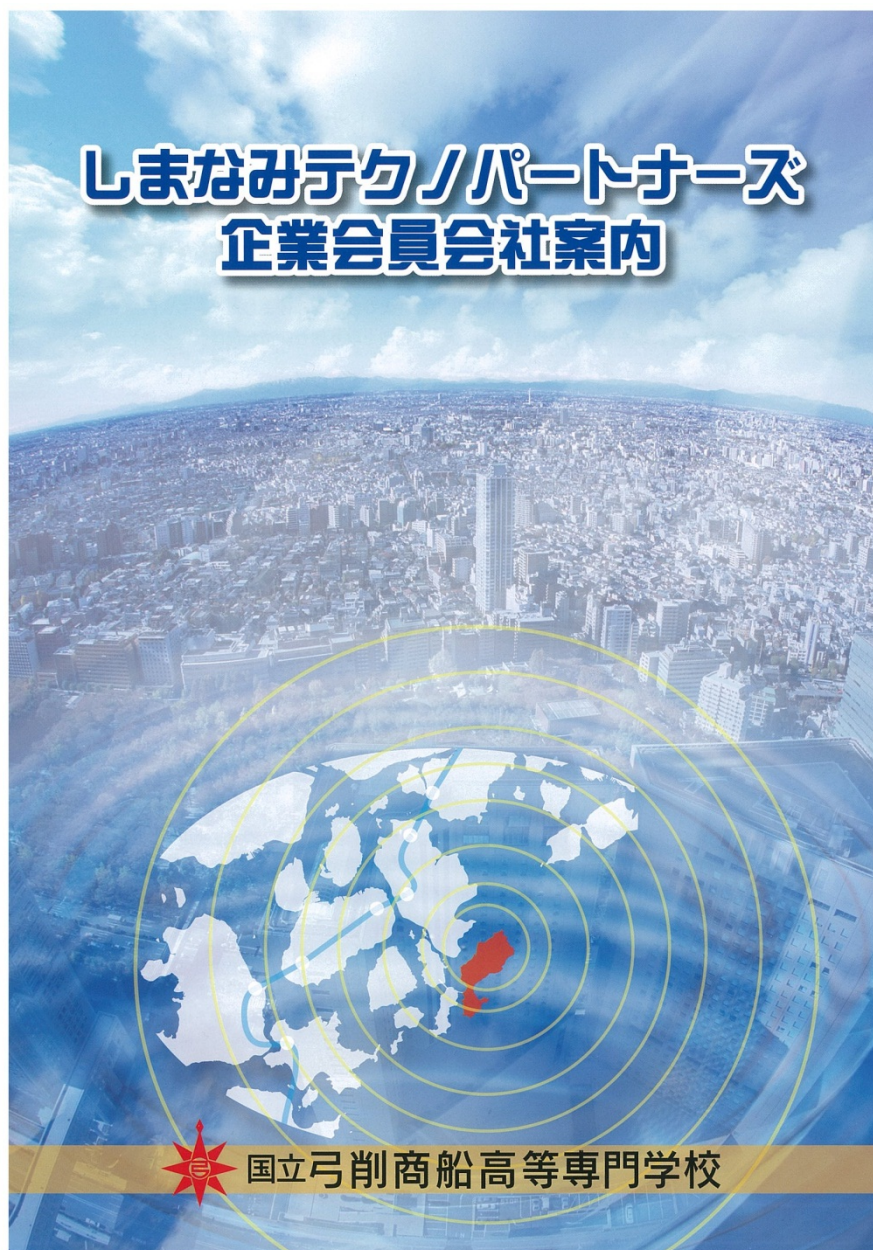
製造業において、今後他国との競争がますます激しくなることが予想されるなか、より付加価値の高い製品を作り出すことは生き残るための必須条件であると思います。その際に3DCADは大きな武器になりえると思います。しかし、3DCAD導入におけるソフトウェアの選定は非常に難しく、しかも1度導入するとなかなか変更ができないと思われれます。

本校では、3次元モデルが容易に作成でき、しかも操作性が優れている点を高く評価して数本ですがSolidworksを導入しました。今回の講習は、簡単なチュートリアルを体験していただくことで、参加された企業の方が3DCAD選定の際の参考に少しでもお役に立てることを期待して、初心者向けの3DCADの体験講習を計画しました。

担当講師 鶴 秀登 (電子機械工学科 教授)
中山 恭秀 (電子機械工学科 准教授)

期 日	時 間	講 習 内 容
平成24年11月12日	13:20 ~ 16:50	<ul style="list-style-type: none"> ・有限要素法の理論について 三角形定ひずみ要素についての理論 マトリクス解析についての理論 ・CADソフトによる事例モデルの作成
平成24年11月19日	13:20 ~ 16:50	<ul style="list-style-type: none"> ・有限要素法の理論について 要素剛性マトリクスについての理論と その構成や組み立てについて ・CADソフトによる事例モデルの作成
平成24年11月26日	13:20 ~ 16:50	<ul style="list-style-type: none"> ・有限要素法の理論について トラス問題を事例とした、要素剛性マトリクスと 要素剛性方程式の組み立てについて シェル要素について ・CADソフトによる事例モデルの作成 ・V曲げ加工を事例とした、接触問題に関するFEM解析

(出典：企画広報室)



(出典：企画広報室)

講演会

『大気環境と呼吸器疾患』



日時 平成**25**年**3**月**27**日(水)
午後2時から

場所 せとうち交流館 多目的ホール
(上島町弓削下弓削1037-2)

講師 島 正之先生
兵庫医科大学 公衆衛生学講座 教授

参加申込 / 事前申込は不要です。
参加対象 / 興味のある方は、ご自由にご参加ください。

主催：弓削商船高等専門学校
共催：上島町

【お問い合わせ先】
弓削商船高等専門学校（総務課総務係）
TEL：0897-77-4606
MAIL:soumu@yuge.ac.jp



(出典：総務課)

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

練習船「弓削丸」を共同研究や卒業研究・特別研究などに利用することに関しては、商船学科長を委員長として、船長、機関長、教務主事、各学科長等を委員とする練習船運航委員会で審議・計画し有効活用を図っており、利用上の問題点の把握と改善に努めている(資料A-1-③-1)

地域共同研究推進センターの活動については、センター長を委員長として、副センター長、各学科長、事務部長、各学科代表教員を委員とし、各課長を幹事とする同センター運営委員会(資料A-1-③-2)において、研究活動の活性化及び向上、地域社会及び地域の産業の発展に貢献する研究の推進における問題点の把握やその改善策を検討している(資料A-1-③-3)。

学外有識者による運営諮問会議を開催し(資料11-2-②-4)、本校の研究活動に関連して地域共同研究推進センターの活動や技術支援センターについて等の事項を諮問し(資料A-1-③-4)、今後の課題について報告しており、提言を受けて改善に結び付けている。審議内容については、毎回、報告書を作成している(資料A-1-③-5)。

校長を委員長とする自己点検評価委員会においては、教育研究活動全般にわたって点検及び評価を行っている(資料A-1-③-6)。総括内容については、自己点検・評価報告書をまとめ(資料A-1-③-7)、それらを受けて関係の部署で課題の整理、改善に努めている。

本校では、中期計画、年度計画を推進するために中期計画推進室を設置し(資料A-1-③-8)、年度ごとの進捗状況を確認し、遅延している事項については指示を行って(資料A-1-③-9)、着実な実施と改善を図っている(資料A-1-③-10)。

校内外の各種資金申請書類は、提出された後、運営委員会で審議したうえで採択の決定をしており、資金使用状況や研究成果については、年度末に報告書の提出を義務付けている(資料A-1-③-11)。

国際交流活動に関しては、国際交流推進室会議で問題点の把握や改善策の検討(新たに台湾の大学と交流協定を締結すること)を行っている(資料A-1-③-12)。

(分析結果とその根拠理由)

練習船運航委員会、地域共同研究推進センター運営委員会、自己点検評価委員会、中期計画推進室、国際交流推進室などの組織が設置され、それぞれの所掌事項の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備されている。また、運営諮問会議において外部有識者による点検体制も導入されており、研究活動の改善に役立てられている。

以上のことから、研究活動等の実施状況や問題点の把握などが行われており、改善を図っていくための体制が整備され、機能している。

平成 24 年度第 1 回練習船運航委員会議事要録

日 時 平成 25 年 2 月 4 日 (月) 16 時 20 分～16 時 50 分

場 所 第 2 会議室

出席者 高岡委員長 以下 11 名 (地共研センター長については代理出席)

議 題 平成 25 年度練習船運航予定 (案) について

1 平成 25 年度練習船運航予定 (案) について

運航委員長より関係部署から提出された「平成 25 年度弓削丸運航希望」を基に、運航希望と各運航項目内容の説明及び確認を行い、審議した。

「平成 25 年度弓削丸運航予定」作成後、追加希望された運航については、その運航内容等を十分に吟味し、審議することを確認した。また、日程等の不都合がでてきた際は、その都度審議の上、修正報告することを確認した。

— 審議事項 —

(1) 商船学科

練習船実習については、商船学科 2 年生を 2 日増、商船学科 5 年生を 1 日減、計 1 日増やした。
なお、例年どおり 1 学年 1 単位 4 日とし、5 年間での合計実施については変更ない。
各実験実習、前期及び後期補講航海については例年どおり実施する。

(2) 電子機械工学科

今年度と同様、M1・M3 の航海実習は例年どおりの日数で実施する。平成 25 年度の M5 の特別講義の航海については単独では実施しないが、他の航海と合わせて実施する。

(3) 情報工学科

今年度と同様、I2・I4 で航海実習は例年どおりの日数で実施する。

(4) 今治市立中学校及び、尾道市立栗原中学校 体験航海

今年度と同様、両中学校に対する体験航海を PR 活動の一環として実施し、継続する。

(5) 高専 (商船学科) 5 校合同進学ガイダンス

2012 年進学ガイダンスのフォローアップ及び 2013 年ガイダンスを実施する予定である。
なお、詳細については計画中である。

(6) 愛媛大学との共同研究

愛媛大学との共同研究を今年度と同様に実施する。
また、台風等による運航の変更等がある場合は、授業、実験実習の振り替え等を考慮し、無理の無い運航を行うよう再確認した。

(7) 広島工業大学との共同研究

広島工業大学上井准教授との共同研究を本年度と同様に実施する。
なお、共同研究を実施するにあたり、本校共同研究者を明確にし、契約を行うことを再確認した。

(8) 商船学科 練習船弓削丸 一等航海士 森助教 研究航海

小型船に搭載するレーダー反射板によるレーダー反射波の研究航海を実施する。

(9) 商船学科 山崎助教 研究航海

来島海峡における交通流を調査し、通航船舶の状況や船舶の航過距離を把握し、航路内の安全性向上に向けた提案を行うための研究航海を実施する。

(出典:平成 24 年度第 1 回練習船運航委員会)

○弓削商船高等専門学校地域共同研究推進
センター運営委員会規則

制 定 平成14年10月18日

最終改正 平成21年3月19日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター規則第6条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校地域共同研究推進センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) センターの管理運営の基本方針に関する事項
- (2) センターの事業計画に関する事項
- (3) 研究組織に関する事項
- (4) 研究テーマに関する事項
- (5) その他センターの運営に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 事務部長
- (5) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名

2 前項第5号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、企画広報室において処理する。

(出典：弓削商船高等専門学校規則集2-17 抜粋)

平成24年度第1回地域共同研究推進センター運営委員会議事要旨

日 時 平成24年5月7日(月) 16:20～17:25
場 所 第2会議室
出席者 10名(別紙のとおり)
オブザーバー 企画広報室長、企画係

議 題

(審議事項)

1. 平成24年度地域共同研究推進センター事業計画(案)について

委員長から、資料1に基づき、事業計画(案)及び担当(案)について説明があり、今年度の変更点について、下記のとおり説明があった。

- 新しく「テクノフロンティア2012」に四国地区イノベーションセンターとして1ブースを出展し、その中で各校から1名ずつパネル発表を行う予定であり、本校からは、情報工学科前田助教が発表予定である。
 - 今年度から「尾道みなと祭」「今治市ものづくり体験・実施事業」「ジュニアアドベンチャー選手権」「四国地区高専教員研究集会」など地域連携、産学連携に関する事業であるので事業計画に加えることとした。
- 以上についての説明後、審議の結果、原案どおり了承された。

2. 技術振興会について

(1) 平成24年度技術振興会総会等の日程について

委員長から、資料2に基づき、平成24年度技術振興会総会等の日程及び役員について、説明があり、意義なく了承された。

(2) 平成23年度事業報告、決算報告について

委員長から、資料3に基づき、平成23年度技術振興会事業報告について、以下のとおり説明があった。

- 技術講習会の参加者がなかったため実施しなかった。
- 出前講座の要望がなかったため実施しなかった。
- 学生・企業向け就職冊子は作成に時間を要し、完成が年度内とならなかった。
- 今治・しまなみ海道「ものづくり」技術・経営情報交換会を新しい試みとして実施し、活発に議論が行われた。

続いて、委員長より、予算決算書に基づき、決算報告について、ほぼ予算どおり使用したとの説明があり、事業報告、決算報告について、平成24年度技術振興会

(出典：平成24年度第1回地域共同研究推進センター運営委員会)

運営諮問会議諮問事項一覧

回	日時	諮問事項
第1回	平成16年11月30日(火) 14:00~16:30	(1)本校の特徴を生かした個性的教育の進め方について (2)本校に適正な入学生の確保と個性伸長のための教育改善について
第2回	平成17年7月11日(月) 14:00~16:30	(1)本校の社会貢献について (2)専攻科の発足と内容の充実に向けて
第3回	平成19年2月2日(金) 14:00~16:30	(1)学生指導について (2)学生寮の運営について
第4回	平成20年1月29日(火) 14:00~17:00	(1)地域共同研究推進センターにおける活動 (2)専攻科におけるインターンシップ及び弓削丸の活用
第5回	平成21年3月5日(木) 14:00~17:00	(1)入試業務に関すること ①学生募集について ②試験問題の作成ミスの防止について ③重要書類の安全な保管方法について (2)学内施設の効率的な運営方法 ①保健室 ②図書館
第6回	平成22年3月15日(月) 14:00~16:30	(1)第1期中期計画のまとめについて (2)技術支援センターについて
第7回	平成22年12月22日(水) 14:00~16:20	(1)国際交流活動について
第8回	平成23年12月19日(月) 14:00~16:00	(1)多様化する学生への支援について ①学習支援について ②キャリア支援について ③寮生活の支援について
第9回	平成24年12月5日(水) 14:00~16:00	(1)高専間の連携について (2)学校の管理運営について

(出典：企画広報室)

弓削商船高等専門学校 第7回運営諮問会議報告書

平成22年12月

(出典：第7回運営諮問会議報告書表紙)

○弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会規則

制 定 平成4年5月14日

最終改正 平成23年12月22日

(趣旨)

第1条 この規則は、弓削商船高等専門学校（以下「本校」という。）内部組織規則第16条第2項の規定に基づき、弓削商船高等専門学校自己点検評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について必要な事項を定める。

(審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、本校の教育水準の向上を図り、本校の目的及び社会的使命を達成することを目的とする。

- (1) 自己点検評価の実施方法等に関する事項
- (2) 自己点検評価の項目の設定に関する事項
- (3) 自己点検評価の結果の活用に関する事項
- (4) その他自己点検評価の実施に関する事項

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 校長
- (2) 各主事
- (3) 各学科長、総合教育科長及び専攻科長
- (4) 図書館長
- (5) 情報処理教育センター長及び地域共同研究推進センター長
- (6) 各学科及び総合教育科から選出された教員各1名
- (7) 事務部長
- (8) 技術支援センター長

2 前項第6号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、前条第1項第1号の委員をもって充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(幹事)

第6条 委員会に幹事を置き、各課長をもって充てる。

(庶務)

(出典:弓削商船高等専門学校規則集2-2抜粋)

自己点検・評価報告書

－平成22年度における学科等の現状と課題－

平成23年3月
弓削商船高等専門学校

(出典：自己点検・評価報告書表紙)

○弓削商船高等専門学校中期計画推進室規則

制 定 平成16年11月18日

最終改正 平成22年7月26日

(設置)

第1条 弓削商船高等専門学校に、中期計画、年度計画の実施を推進するため弓削商船高等専門学校中期計画推進室（以下「推進室」という。）を置く。

(業務)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 中期計画、年度計画の実施に関する事項
- (2) その他校長が指示する事項

2 推進室は、中期計画、年度計画の進捗状況について、関係学科等に指示できるものとする。

(組織)

第3条 推進室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- (1) 各主事
- (2) 地域共同研究推進センター長
- (3) 各学科及び総合教育科から校長が指名した教員各1名
- (4) 事務部長
- (5) 企画広報室長
- (6) 事務部及び技術支援センターから選出された者4名

2 前項第3号及び第6号の室員の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、室員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長及び副室長)

第4条 推進室に室長及び副室長を置く。

- 2 室長及び副室長は、前条第1項第1号及び第3号の室員の中から校長が指名する。
- 3 室長は、推進室に関する業務を総括する。
- 4 副室長は、室長の業務を補佐する。
- 5 室長に事故があるときは、副室長がその職務を代行する。

(庶務)

第5条 推進室に関する庶務は、企画広報室において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成16年11月18日から施行する。
- 2 この規則の施行後最初に任命される第3条第1項第3号及び第5号の室員の任期は、同条第2項本文の規定にかかわらず、平成18年3月31日までとする。

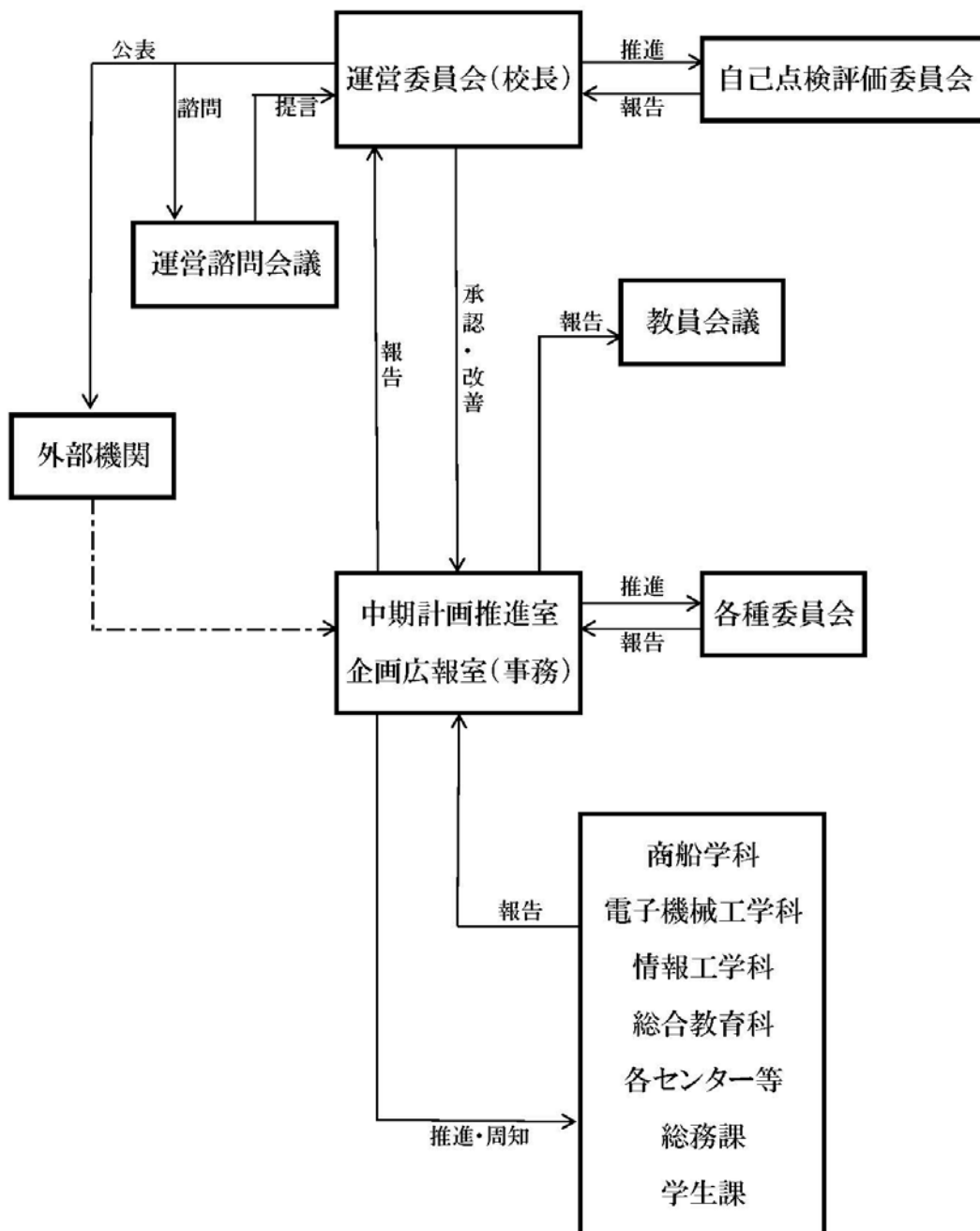
附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

(出典:弓削商船高等専門学校規則集2-25 抜粋)

中期計画 PDCA



(出典：企画広報室)

平成24年度第1回中期計画推進室会議議事要旨

日 時：平成24年4月6日（金） 11:00～11:30

場 所：第二会議室

出席者：12名（別紙のとおり）

議 題：1. 平成24年度年度計画について
2. その他

議 事

議事に先立ち、今年度から教務主事が推進室長、商船学科、多田先生が副室長となった旨の報告があった。

まず、推進室長から、配布している資料について説明があり、先に「高専機構中期計画の重点課題への取組状況」から説明するとの発言があった。

推進室長から、この資料は、校長・事務部長会議での資料であり、高専機構としては、独立行政法人としての評価は、高専機構が受ける事になっているので取組状況をまとめているものである旨の説明があった。

推進室長から、課題1のガバナンスの強化は意識している箇所であること。2のリスク管理にも新たに力を入れている。3の入学志願者の確保は機構としても苦労しているところであり、その取組として、最寄地受検制度や瀬戸内三商船複数校志望受検制度などを実施している。6の高専のプレゼンスでは、高専制度50周年記念行事のイベントで社会的な認識が向上するとの期待をしている。7の留学生、国際交流は、高専機構が中心になって進めているプログラムがいくつかあり、本校でも国際交流推進室で企画されているなど、高専機構が進めている状況について大まかな説明があった。

1. 平成24年度年度計画について

推進室長から、資料1は、高専機構の平成24年度年度計画素案及び具体的な課題取組等を踏まえて、本校で取り組める部分について平成23年度版を赤字で修正している旨の説明があり、修正した箇所についてそれぞれ説明があった。

- 入試方法の改善では、「最寄地受検制度」及び「複数校志望受検制度」に向けて検討するという事で、充実させるという表現にしている。
- 教育課程の編成では、モデルカリキュラムを教務的な課題として上げている。
- 学科の大括り化やコース制では、昨年度の本校将来計画委員会で電子機械工学科の改編について議論したので、将来構想という表現にまとめている。
- 到達度試験で、「化学」については、四国地区で今までも実施していたが、オフィシャルな意味で実施するという事で追加した。

（出典：企画広報室）

別紙第4号様式（第16条関係）

共同研究完了報告書

平成25年 4月 1日

弓削商船高等専門学校長 殿

学 科 名 練習船弓削丸
 研究代表者氏名 永本 和寿



平成22年8月2日付けで受入決定のありました共同研究が完了しましたので、下記のとおり報告します。

記

研 究 題 目	出入港など船舶低速航行時の予測制御法による操舵性改善	
研究に従事した者	弓削商船高等専門学校	広島工業大学
	練習船 弓削丸 船長 永本 和寿 機関長 松永 直也	工学部知能機械工学科 准教授 土井 正好
研 究 期 間	平成24年7月1日から平成25年 3月31日まで	
研究の経過及び成果	弓削丸の各種計測器及びデータ管理機能を利用して船体運動の数値モデリングを行った。また、研究室で設計した制御系を弓削丸に実装し、新たな操船システムを開発することができた。	
研究に要した経費	弓削商船高等専門学校	広島工業大学
	24,000円	144,000円
研究に使用した施設及び設備	弓削商船高等専門学校	広島工業大学
	弓削丸	学内研究室
そ の 他		

(出典：企画広報室)

平成 24 年度第 3 回国際交流推進室会議議事概要

日 時 平成 24 年 12 月 7 日 (金) 14:05～14:30
場 所 第 2 会議室
出席者 7 名 (別紙のとおり)

(審議事項)

1. 平成 24 年度海外派遣について

国際交流推進室長から、議題資料 1 に基づき、新たに申請のあった平成 24 年度海外派遣について 以下のとおり説明があった。

- ・国際インターンシップ (商船学科・海事系専攻科) に 2 名の学生が申込み、参加することが決定した。
- ・参加者は 3 年生で日本学生支援機構からの奨学金が給付されないので、国際交流助成金から助成をしたい。
- ・今年度はナコンパノム大学への派遣学生に対し、日本学生支援機構からの奨学金 8 万円の支援をすることになっている。同じ年度内でもあり同等に取り扱うことがふさわしく、技術振興会からの 5 万円の支援を引いた 3 万円を国際交流助成金から助成したい。
- ・2 名の助成をしても現在執行済みの金額とあわせて年度予算の 40 万円以内になる。

以上の説明により審議した結果、2 名の学生に助成することが承認された。

2. その他

国際交流推進室長から、議題資料 2 に基づき、現在の協定校がハワイとタイで遠く、渡航費がかかることなどから、時間的にも渡航費についても経済的である台湾に協定校を探すのが良いのではないかと提案があり、以下のとおり説明があった。

- ・現在、台湾の 5 大学等と高専機構が包括交流協定を結んでいる。
- ・この大学等へ高専機構理事長や 21 高専教員が訪問した報告書には、海外インターンシップや工学実験をテーマにした短期留学生の受け入れ、中国語研修などは可能ではないか。また、英会話能力の向上や異文化体験には不向きであることなどの報告がされている。

以上の説明により、まずは学生の国際交流を活発にしたいので台湾と協定を結ぶようにしていきたいとの発言があり、種々審議した結果、協定締結に向けた準備を進めていくことで承認された。

以上

(出典:平成 24 年度第 3 回国際交流推進室会議議事録抜粋)

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

練習船「弓削丸」を活用して、実験・実習及び卒業研究等での利用などで教育への還元を行い、他の研究機関との共同研究及び四国地区高等専門学校連携による特別講義での実習などにより、海洋及び船舶に関する教育研究の拠点として有効利用している。

(改善を要する点)

地域共同研究推進センターの活動強化及び外部資金の獲得増や特許の取得増へ向けてより一層の改善に努める必要がある。

(3) 選択的評価事項 A の自己評価の概要

学術の進展に即応した教育の質の向上、地域社会及び地域の産業の発展に貢献するため、地域共同研究推進センターを設置しており、他機関との定期的な研究の連携・交流や上島町と連携した事業及び共同研究を行い、概要をまとめた冊子の配布や教育研究者総覧・研究者情報検索システムなどで広報活動に努めている。

しまなみ海道エリアの産業界との連携を密にし、本校の技術と人材を活用した「弓削商船高等専門学校技術振興会（しまなみテクノパートナーズ）」を設立しており、「しまなみテクノパートナーズ企業会員会社案内」の刊行や「今治・しまなみ海道「ものづくり」技術・経営情報交換会」により企業と教員の研究活動の連携や支援等を行っている。また、技術振興会の支援をきっかけに取得した特許や四国地区高等専門学校シーズ発表会等での研究発表にも努めている。

練習船「弓削丸」を利用した共同研究などで得られた知見を基に、卒業研究・特別研究テーマへの還元や四国地区高等専門学校が連携した特別講義での活用などにより、海洋及び船舶に関する教育研究の拠点として有効利用し、商船学科を有する高等専門学校として特色ある教育研究活動を組織的に展開している。

高等専門学校 I T 教育コンソーシアムの中で本校は中核的な役割を担い、さらに e-learning を活用した創造性授業や資格試験対策に利用するなど、教育内容を学術発展に即応させる研究を行っている。また、タイ王国ナコンパノム大学等と国際交流を通して、共同研究や学術・文化交流を行っており、その成果は学生への教育にも活かされている。

外部資金の獲得増や特許の取得増へ向けてより一層の改善に努める必要があるが、各種助成の応募案内や説明会の実施などの活動支援を行うことで受託・共同研究や助成研究の拡充を図っており、校長裁量経費の効果的な配分、技術支援センター設置や企画広報室職員を軸にしたサポートなど研究活動の支援を行っている。

研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制として、練習船運航委員会、地域共同研究推進センター運営委員会、自己点検評価委員会、中期計画推進室、国際交流推進室などの組織が設置され、それぞれの所掌事項の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備されている。また、運営諮問会議において外部有識者による点検体制も導入されており、研究活動の改善に結び付いている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況が良好である。